自衛隊体験で感激

心を磨くには体を動かすのもいい。厳しい訓練や規律ある集団生活ならなおさらだ。その最たる組織が自衛隊。そこに目を付け、新人の体験入隊に取り組む企業が増えている。体験者は最初は不安でも、最後は充実感や達成感を得られるようだ。一方、磨こうとしても傷つき病んでしまうのが心。企業の管理者は部下の心の健康に気を配りたいものだ。

行軍を体験―自衛隊装備に身を固め約12キロメートルを歩く

フレッシャーズ教育の一環

「離隊の時はみなさん感激して帰られる。泣いてる女性もいる」。そう爽やかにふり返るのは陸上自衛隊福岡駐屯地（福岡県春日市）の真田和幸広報班長だ。

同駐屯地では一般企業や団体からの体験入隊を受け入れている。すでに1972年当時実施していた記録が残っているというから、40年以上受け入れを続けていることになる。受け入れを続けている理由について真田班長は「国民とともにある自衛隊の実情や活動について理解してもらうのが目的。自衛隊の広報活動のひとつでもある」と説明する。

体験入隊の受け入れは一般の企業や団体などに限定。個人の申し込みは受け付けていない。申し込む企業や団体はフレッシャーズ教育研修の一環というのがほとんどだ。このため実施の時期は3月後半から4月に集中する。これまでもメーカーや金融機関、警備会社、団体などから多くのフレッシャーズが体験入隊している。平均すると年間25社、350人程度を受け入れているという。

同駐屯地での体験入隊は通常2泊3日で行われる。プログラムの中身は体験入隊する部隊で多少異なるが基本メニューはほぼ同じ。自衛隊の現況説明、防衛講話など座学、個人および集団行動に関するしつけや基本教練、行軍や体育検定体験といった訓練が行われる。そのほか隊員との懇親会や施設、装備の説明や見学、自衛隊車両の搭乗体験なども行う。食事と入浴、睡眠以外、起床から消灯までスケジュールがびっしりと詰まっている。

最初は参加者同士は連帯感もなく、今までに体験したことがない厳しい訓練や、規律ある集団生活に不安を抱えての体験入隊だが、すべてのプログラムを終えてユニフォームや装備を返納し、修了式を迎えるころには、参加者の顔つきも変わってくる。集団生活の中で協調性や規律、チームワークを学び、ともに頑張った仲間への思いやりなどを改めて認識するという。

スケジュールがびっしり

そして何よりもこの体験入隊の経験を通じて一人ひとりが充実感や達成感を味わうことができるというのが大きい。「最後にはみなさん晴れ晴れとした表情をされている。私たちも実施して本当に良かったと感じる」（真田班長）という。ここ数年、病気以外での脱落者はいないとのこと。体験者の感想リポートには、初めての体験への驚きや感謝の気持ちが数多くつづられている。

同駐屯地で体験入隊を受け入れている部隊は現在六つ。格闘訓練を積んだ普通科部隊や、後方支援部隊などさまざまだ。訓練の内容も受け入れ部隊によって特徴が出る。本格的な格闘技を体験したり、衛生・救護方法を学んだり、化学兵器などに対応する専用特殊車両による除洗作業を見学したりする。

体験入隊のスケジュールは「こうした各部隊の訓練や任務に支障がない範囲で、なおかつ応募する企業側の希望になるべく添うように、毎回日程や宿泊施設の調整が大変だ」と真田班長は打ち明ける。応募する企業側の評判も上々で、毎年予定を上回る件数の応募がある。すでに新年度の応募が始まっているそうだ。

陸上自衛隊福岡駐屯地
真田　和幸　広報班長

離隊の時はみなさん感激して帰られる

中小企業基盤整備機構九州本部

部下の心の不調にご用心

メンタルヘルスをテーマに講座

精神を磨いたり鍛えたりしようとしても不調になることがあるのが厳しい現代社会だ。社員一人ひとりの業務は増して精神的な重圧をかける一方、余裕のない組織体制では助け合う人間関係は希薄化している。

そのような中、メンタルヘルスと言われる心の健康問題が増えてきていると言われている。うつ病など病気と診断される状態になってからの対応は難しく、回復までに長い時間が必要となる。そうなる前に前兆を見逃さず、対策を講じることが重要だ。特に管理者は部下の心の不調に気を配ることが必要だろう。企業にとっては生産性の低下であり、コスト増の要因にもなるからだ。

そのような管理者向け教育を行っているのが企業支援機関である中小企業基盤整備機構九州本部（福岡市博多区）だ。同本部の中小企業大学校直方校（福岡県直方市）は2日間の管理者向けメンタルヘルスマネジメント講座の開催や約半年の経営管理者養成コース内でのメンタルヘルスをテーマにした科目実施を行っている。

12年度の2日間の講座は終了し、経営管理者養成コースも既に始まっているが13年度も同様に実施する方針だ。ちなみに12年度の2日間の講座では病気になる前の段階で社員のストレスを把握、緩和する体勢や仕組み作りを臨床心理士から学んだ。経営管理者養成コースでは人事管理と組織を学ぶ一環で、セクハラやパワハラとともにメンタルヘルスについて教えている。

同校は基本的に企業からの派遣を受け入れる形で個人事業主も活用が可能だ。経営トップを引き継ぐ見込みの人材が学ぶケースも多い。企業によっては幹部や幹部候補を派遣する場合のほかキャリアアップを目指すとして、希望した全社員を派遣する会社もあるという。

問い合わせは中小企業基盤整備機構九州本部人材支援部（092・263・1522）もしくは中小企業大学校直方校（0949・28・1144）へ。

中小企業大学校直方校

新たなる食ビジネスを構築する
第23回 西日本 食品産業創造展'13
PROFESSIONAL FOODSERVICE, INDUSTRY & CREATION
会期 2013年5月15日(水)～17日(金) 10:00～17:00（最終日は16:00まで）
会場 マリンメッセ福岡
主催 日刊工業新聞社　共催 西日本食品産業創造展 開催委員会
主な出展対象
○外食・中食・給食産業
○食肉・水産・農産加工機器
○店舗サービス・販売支援
○原材料・食材
○製菓・製パン機器
○衛生・品質管理
○包装資材
募集締切 2013年1月18日(金)
1小間<Aタイプ>：間口3000×奥行3000×壁高2700mm……¥241,500
1小間<Bタイプ>：間口2100×奥行1800×壁高2700mm……¥157,500
※Bタイプは原材料・食材ブロックのみ
15日・16日は商談中心のビジネスデー
FOOD ISLAND
日本の食を牽引するチカラ
出展募集中！
展示会のお問い合わせ／日刊工業新聞社 西部支社 展示会事務局　〒812-0029 福岡市博多区古門戸町1-1　TEL. 092-271-5715　FAX. 092-271-5881
URL http://www.nikkanseibu-eve.com/food/
E-mail : foodinfo@media.nikkan.co.jp